

日 薬 連 発 第 059 号
2023 年 2 月 3 日

加 盟 団 体 殿

日 本 製 薬 団 体 連 合 会
環 境 委 員 会
委 員 長 林 哲 人

日本製薬団体連合会 第3回 環境セミナー 参加募集

平素は環境委員会の活動に格別のご理解ご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

日本製薬団体連合会（日薬連）は、「環境セミナー」を WEB 開催する運びとなりましたので、以下のとおりご案内申し上げます。

記

日 時：2023 年 2 月 22 日（水） 13：00～16：30 （WEB サイトオープン 12：40～）
形 式：日薬連をホストとした WEB セミナー（MS Teams を使用します）

1. 参加申し込み

参加には申し込みが必要ですので、必ず事前にお申し込み下さい。

（1）受講資格

日薬連加盟団体会員会社

（2）申し込み方法

日薬連ホームページから「講演会等受付システム」に入りお申し込み下さい。

（3）日薬連ホームページから「講演会等受付システム」の入り方

日薬連ホームページ (<http://www.fpmaj.gr.jp/>) の（左下にある）「講演会等受付システム」をクリックして下さい。

（4）申し込み期限

2023 年 2 月 15 日（水）

2. 参加費

無料

3. セミナー参加方法及びセミナー資料の入手

申し込みされた方には視聴用の URL 及び講演資料を格納したサイトの URL を、セミナー前日までにメールでご連絡いたします。

セミナー当日、視聴用の URL からログインしご視聴下さい。また、セミナー資料は所定のサイトからダウンロードして、ご準備ください。

4. 問い合わせ先

日本製薬団体連合会 環境委員会事務局（川崎、岩鍛治）

東京都中央区日本橋本町 3-7-2 MFPR 日本橋本町ビル 3F

電話：03-3527-3154 FAX：03-3527-3174

E-mail：kankyou-jimukyoku@fpmaj.gr.jp

第3回 日薬連 環境セミナー プログラム

日 時：2023 年 2 月 22 日（水）13：00～ ： 受付開始 12：40～

ウェビナー形式：Teams 開催

ホスト会場：日薬連会議室

13：00～13：05 諸事項説明

13：05～13：10 開会の挨拶 環境委員会 委員長 林 哲人

13：10～13：30 「日薬連カーボンニュートラル行動計画の取り組み」

日本製薬団体連合会 環境委員会 カーボンニュートラル行動計画 WG リーダー 須田 篤志
製薬業界は、経団連のカーボンニュートラル行動計画（旧：低炭素社会実行計画）に参画し、工場や研究所をはじめ、営業車両やオフィスでも様々な地球温暖化対策に取り組んでいます。日薬連のカーボンニュートラル行動計画について、2021 年度までの取り組みと、カーボンニュートラルに向けた長期ビジョンの策定、2030 年目標などについてご紹介します。

13：30～13：50 「日薬連循環型社会形成自主行動計画の取り組み」

日本製薬団体連合会 環境委員会 循環型社会 WG リーダー 木村 光裕
資源循環の向上による廃棄物の削減と省資源化により環境負荷低減を目指す「経団連循環型社会形成自主計画」に日薬連は参画しており、その概要についてご説明します。その後に、日薬連における「循環型社会形成自主行動計画」の取り組み状況と、2022 年度フォローアップ調査結果についてご報告します。

13：50～14：00 休憩

14：00～14：50 「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律について」

環境省 環境再生・資源循環局 総務課 リサイクル推進室 矢野 克典 様
海洋プラスチックごみ問題、気候変動問題、諸外国の廃棄物輸入規制強化等への対応を契機として、日本では、国内におけるプラスチックの資源循環を促進する重要性が高まってきました。そこで、2022 年 4 月に「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」を施行しており、今回はその概要についてご説明します。

14：50～15：40 「省エネルギー政策の今後の方向性」

資源エネルギー庁
省エネルギー・新エネルギー部
省エネルギー課 中嶋 佑佳 様
2050 年カーボンニュートラルの目標に向け、省エネルギーは一層重要となり、また、今後は、従来からの「省エネ」に加えて、需要側での非化石エネルギー導入等の取組を進めることも必要となっています。これらを踏まえた国の取組として、規制・支援の両面について最新情報をご紹介します。

15：40～15：50 休憩

15：50～16：30 「プラスチック循環資源法施行に伴い現場は何をする？」

日本環境開発株式会社 環境リスク 0（ゼロ）事業部 合田 克至 様
製薬会社の工場という現場において、プラスチック循環資源法施行に伴い、実際には何をすべきなのか？また、廃プラスチックの再生利用についての実態は？など解説します。

以上